

磐田市認知症施策 取組状況報告

1 認知症の理解と知識の普及啓発

認知症について正しく理解し、日頃から認知症予防のための取組を推進するとともに、早期対応のための早期受診、早期治療、適切な対応を普及啓発する

(1) 認知症への理解を深めるための普及啓発の推進

① 認知症サポーター養成講座の開催

・令和5年度…33回開催 1,085人 (R6.2.20時点)

医療・介護施設、サロン、金融機関、小・中・高等学校などで開催

●認知症サポーター…累計 20,555人 (R6.2.20時点)

② 認知症地域支援推進員の配置

・地域の認知症施策の中心として活動

・日常生活圏域(中学校区)ごと、地域包括支援センターに10名配置。

③ 認知症の理解促進に向けた地域での普及啓発事業

・認知症フォーラム等 令和5年度…14回開催 (R6.2.20時点)

●R6.2.10 豊岡認知症講演会にて静岡県認知症希望大使(認知症当事者)の講話

・認知症カフェ等 令和5年度…48回開催 (R6.2.20時点)

(2) 認知症の進行段階に合わせた、医療・介護の提供

① 認知症疾患医療センター(磐田市立総合病院)・市内医療機関(認知症サポート医)との連携

② いわた認知症ハンドブックの改訂・普及

<改訂時の留意点>

・認知症の人とその家族が手に取った時に、今後の見通しがつくような内容

・「新しい認知症観」に基づいた内容

これまでの考え方

- ① 認知症は自分に関係ないこと。
- ② 本人は何もわかっていない。
- ③ 自分らしさがなくなる。
- ④ 問題をおこす人。
- ⑤ 本人は判断できない。周りが決めてあげないといけない。
- ⑥ 地域での生活は難しい。隠したい。恥ずかしい。
- ⑦ 孤立、あきらめ。

悪環境におちいり、
お互いが暮らしにくい

Change!

今の考え方

- ① 認知症は自分もなり得ること。
- ② 本人なりにわかっている。
できることもある。
- ③ 自分らしさが最後まである。
- ④ いちばん困っているのは本人。行動には本人なりの理由がある。
- ⑤ 本人が決めて、自分らしく暮らす。
- ⑥ 自分らしく、お互いに支え合い、地域の一員として暮らせる。
- ⑦ やりたいことがある。
できることが沢山ある。

良い環境が生まれ、
お互いが暮らしやすい

(2024改訂 いわた認知症ハンドブック より一部抜粋)

③ 認知症初期集中支援チーム

「複数の専門職が家族の訴え等により認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、アセスメント、家族支援などの初期の支援を包括的、集中的（おおむね6か月）に行い、自立生活のサポートを行うチームをいう」

H30年度から実施しており、H30年度1件、R元年度2件、R3年度1件 対応

【課題】

- ・チーム員として活動が可能で突発的なケース対応ができる人材が少ない
- ・認知症だけでなく、精神疾患等複合的な課題を持つケースも多い
- ・高齢化に伴い認知症の人が増加すると予想される中、対応が必要なケースの増加にどのように対応していくか
- ・「認知症を隠したい」「認知症になりたくない」という意識が強く、自分自身の変化を感じても早期受診・相談につながっていない（重度化するとより受診拒否につながる）

(3) 認知症予防事業の実施

① 継続的な認知症予防活動の普及

- ・いきいき百歳体操・かみかみ百歳体操・しゃきしゃき百歳体操
イスに座り映像に合わせて行う体操。筋力・口腔機能・認知機能の維持・向上などが期待され、交流センター等で週1回実施している
- ・高齢者サロン、シニアクラブ…社会参加することで認知機能の維持を図る

2 認知症の人とその家族への支援

認知症の症状が明らかになってきている人やその家族が、介護保険サービスだけではなく、様々な支援により住み慣れた地域で暮らすための取組を行う。

(1) 若年性認知症の相談支援体制の強化

- ① 多職種連携による現状把握と課題の検討（医療機関との連携）
- ② 若年性認知症当事者と家族の交流の場の再開

(2) 認知症介護者への支援

① 認知症介護者への在宅介護手当の支給

・負担の大きい要介護者の介護の慰労を行うとともに、要介護者の在宅福祉の増進を図るために介護者等へ支給。

※要介護3以上の状態が1年以上継続 + 重度の認知機能の低下が見られる方の介護者等

※要介護2の状態が1年以上継続 + 重度の認知機能の低下が見られる方の介護者等

- ② 認知症の方やその家族の集いの場「認知症カフェ」の普及
- ③ 認知症家族交流会の開催

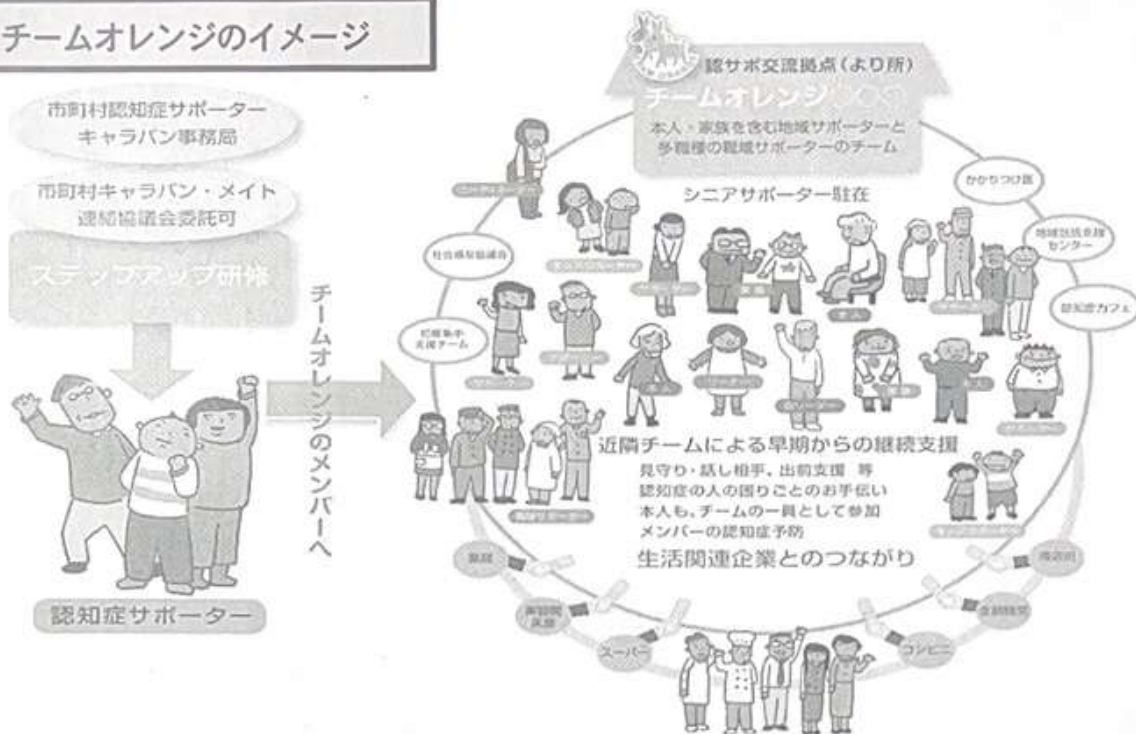
(3) 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進

① 認知症サポーターによる地域での見守り

●チームオレンジ 令和5年度、2チーム発足（南部「いいら！サンバー」・中部「あい」）

認知症サポーターが自身の活動を一步前進させ、仲間とチームを組み、地域で暮らす認知症の人や家族の困りごとに対する支援などを行う取組み。支援の内容は、見守りや声掛け等、活動内容に決まりはなく、チームによって異なる。

チームオレンジのイメージ



特定非営利法人 地域共生政策自治体連携機構 HP より

② 認知症キャラバンメイト及びサポーターのフォローアップ等

・新規キャラバンメイトの養成

●R6. 1. 21 キャラバンメイト養成研修実施 25名受講

内容 ・あんざいクリニック 安齋先生の講義

・グループワークにおいて、実際の講座の企画

<R6 年度の取組み>

- ・キャラバンメイト同士の交流の場、スキルアップの場の提供
- ・認知症サポーターが活躍できる場の情報提供
- ・地域包括支援センターと該当地域のキャラバンメイトやサポーターによる講座開催、認知症カフェのボランティアなど

③ 認知症高齢者事前登録制度による見守りオレンジシールの配布

- ・在宅生活を送っている 197 名が利用 (R6. 1 月末時点)
- ・行方不明捜索同報無線 (R6. 1 月末時点) : 15 件

④ 認知症高齢者の損害賠償保険事業の開始 (R2 年度開始)

- ・事前登録者の中で保険加入を希望する方を対象に、事故等で他者に負わせた損害を補償するもの 保険加入者 : 187 名 (R6. 1 月末時点)